

学校評価シート（自己評価）H3 1年度

ひさみ 幼稚園

1、園の教育目標

子どもたちに豊かな環境を保障して、子どもたちが環境との出会いの中で、驚いたり、感動したり、発見したり、考えたり、自らの興味や関心の要求の質を高め、豊かなあそびや仕事のある生活を展開し、人間としていちばん大切な生きる力を身につけられる保育を目指している。

2、具体的な目標や計画

改訂される『幼稚園教育要領』の内容を理解して、教職員全体で共通理解を図り、保育の質を高めていく。今まで通り園内研修の定期的に行い、幼児理解とよりよい援助を学ぶ機会を設ける。自園給食に向けて施設・設備を整えて食育に力を入れていく。幼稚園の特色である動物飼育や自然遊びに継続して重きを置き、子どもの心身の健やかな成長につなげていく。

3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
教員の資質向上	B	『幼稚園教育要領』の改訂で示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について、教員一人ひとりが理解し、実践できるように努めた。園外研修で、その具体的な姿と保育の指導のポイントを学ぶ機会を得た。各自資質の向上に努め、概ね保育内容も子どもの発達に見合ったものに改められていったが、園行事が続く秋は、その職務に負われ、日々余裕を持って子どもとかわることができず、目標とする保育ができない場面があり、教員自身のもどかしさを感じられた。 保育のマナー化を感じている教員も多く、新しい教材研究などの必要性が問われた。
自園給食の開始（食育）	A	自園給食が開始され、アイコーメディカルとの連携を綿密に行い、食育に力を入れてきた。温かくて、美味しく、栄養価の高い給食に変わり、前年度よりも子どもたちの食欲が大幅に増進した。食事の量が増え、偏食も減り、自園給食の効果が得られた。食育だよりの発行の他、配膳方法・時間などを保育カリキュラムに合わせて柔軟に変更したり、アレルギー除去食を数回に渡り確認したり、給食室や調理員の衛生管理など徹底してきた。
動物飼育	B	ポニーやヤギ、ウサギ、チャボ、魚などの生物を飼育し、子どもの豊かな心や愛情、命の尊さなどを育む保育を継続してきた。ポニーが亡くなったことからその悲しみは大きかったが、命の教育につながった。

<p>環境整備・保育カリキュラムの充実</p>	<p>A</p>	<p>シンボルツリーでもあったクヌギが腐食してきたので、安全面を考えて伐採した。そして冒険小屋・空のままごとハウスを改築し、新しくアトリエを設け、自由遊び時間に、子どもたちが創造的な遊びを繰り広げる「クリエイティブ保育」を実践した。自然物や廃材、新聞紙、粘土等を使っての造形遊びを行い、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の中にもある豊かな感性・表現力・創造力等を育むことに繋がったと思われる。</p> <p>ボルダリングやボール投げコーナーなど新たに設け、子どもの運動面での発達を促進させることができた。</p>
-------------------------	----------	--

4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
<p>A</p>	<p>『幼稚園教育要領』が改訂や社会の実情の変化に伴い、これから求められる保育について園内外での研修を通じて保育者一人ひとりが理解を深めることができた。また自己課題を見つけ、改善に努めるように意識改革を行ったことで、園全体としても保育力の向上が見られた。また、自園給食の開始により、長年願ってきた食育に力を入れることができたことは大きい。また、新たな試みとしてクリエイティブ保育が実践された。さらに、気になる子への配慮や専門機関との連携が十分に図れた。教育課程の再編成や保育者の資質向上など細かい部分での課題はあるが、豊かな環境の中で、主体的で思いやりのある子どもの育成に努めることができた。</p>

○結果(※)について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
<p>教育課程・指導計画の再編成</p>	<p>改訂された『幼稚園教育要領』（特に「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」）に基づいた教育課程や指導計画を再編する必要がある。また、古い表現を新しいものに変えたり、社会や子どもの実状に合わせた内容を盛り込んだりすることも必要になる。また、それらを教員一人ひとりが理解し、実践できるようにして、質の高い保育をめざしていきたい。</p>

<p>小学校との連携</p>	<p>3学期の小学校探検や入学する各小学校との連絡会、幼保小の3者合同連絡会など連携を図っているが、今後、小学校側に提案し、園児と小学生の交流事業を増やしていきたい。また、園児一人ひとりの情報交換会を綿密に行い、特に発達支援が必要な園児の連絡会を重視し、入学後スムーズな学校生活を送れるようにしていきたい。</p>
<p>保育の質の向上</p>	<p>保育者が余裕をもって、子どもたちとかわり、質の高い保育を実践していくために、園行事などの見直しを図る必要がある。特に秋に集中する園行事を縮小し、負担の軽減を図っていく。</p>
<p>飼育動物の衛生・安全管理</p>	<p>飼育動物の安全面、健康面、衛生面をより強化していく必要がある。特に、大型動物は、獣医と連携して予防注射をするなど健康面でも配慮をしていきたい。</p>
<p>教職員間の連携</p>	<p>報告・連絡・相談を大切にして、年齢や経験を問わず、意見をいい合える風通しのいい関係を作していきたい。よりチームワークを深め、園全体としての魅力につなげていきたい。</p>
<p>保護者の参加</p>	<p>保護者会の在り方や保護者の得意分野を生かす「ひさみ幼稚園サポーター制度」を導入することを模索していきたい。</p>